

公開実用平成 3-2950

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-2950

⑬ Int. Cl.

F 16 H 7/08
F 02 B 67/06

識別記号

庁内整理番号

B 8513-3 J
A 6673-3 G

⑭ 公開 平成3年(1991)1月11日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ラチエット式テンシヨナ

⑯ 実 願 平1-62463

⑰ 出 願 平1(1989)5月31日

⑱ 考 案 者 鈴 木 恭 大阪府大阪市鶴見区鶴見4丁目17番88号 株式会社椿本チ
エイン内

⑲ 出 願 人 株式会社椿本チエイン 大阪府大阪市鶴見区鶴見4丁目17番88号

⑳ 代 理 人 弁理士 祐川 尉一 外1名

Best Available Copy

に一定の張力を付与する手段である。このようなテンショナの中には、ハウジングに摺動自在に取付けられたプランジャを突出方向に付勢し、前記ハウジングに設けられたラチェットを前記プランジャに形成されたラックに噛み合わせ、プランジャの戻りを防止するようにした構造のものがある。

ところが、上記のようなテンショナでは、従来、ラチェットの歯部のピッチとラックの歯のピッチは等しく設計されていた。そのため、一方の部材のピッチが変わると、他方の部材は一方の部材に合わせて製作されなければならなかった。

ラチェットは、一般に焼結によって製造される。従って、前述のような設計変更をする毎に、成型型等を製作しなければならず、製造コストが嵩むという問題があった。

なお、歯が1歯しかないラチェットもあるが、強度的に必ずしも充分ではない。

課題を解決するための手段

本考案は、上記のようなテンショナにおいて、ラチェットは複数の歯を有し、その歯部のピッチ

ラック 15 が形成されており、プランジャ 14 の内部にはハウジング 12 との間にプランジャ 14 を突出方向に付勢するスプリング 16 が嵌挿され、この付勢力によって端面 14 a がテンショナシュー 36 を押圧することにより、チェーン 38 に緊張力が付与される。

ハウジング 12 とボールシート 24 には、プランジャ 14 の内部の油室 34 にオイルポンプ等の油圧発生源からの油圧を供給する油路 26, 28 がそれぞれ形成されている。チェックボール 20 は、リテーナ 18 に一端を接するボールスプリング 22 によってボールシート 24 方向に付勢されており、このチェックボール機構が油路 28 と油室 34 間において油室 34 への油の流入を許し、逆に流出は阻止している。

プランジャ 14 の外面には、前述のようにラック 15 が形成され、前記突出方向と逆方向にスプリング 32 から付勢力を受けるラチェット 30 が、ラック 15 に噛み合いハウジング 12 に軸支されている。このラック 15 とラチェット 30 が噛み

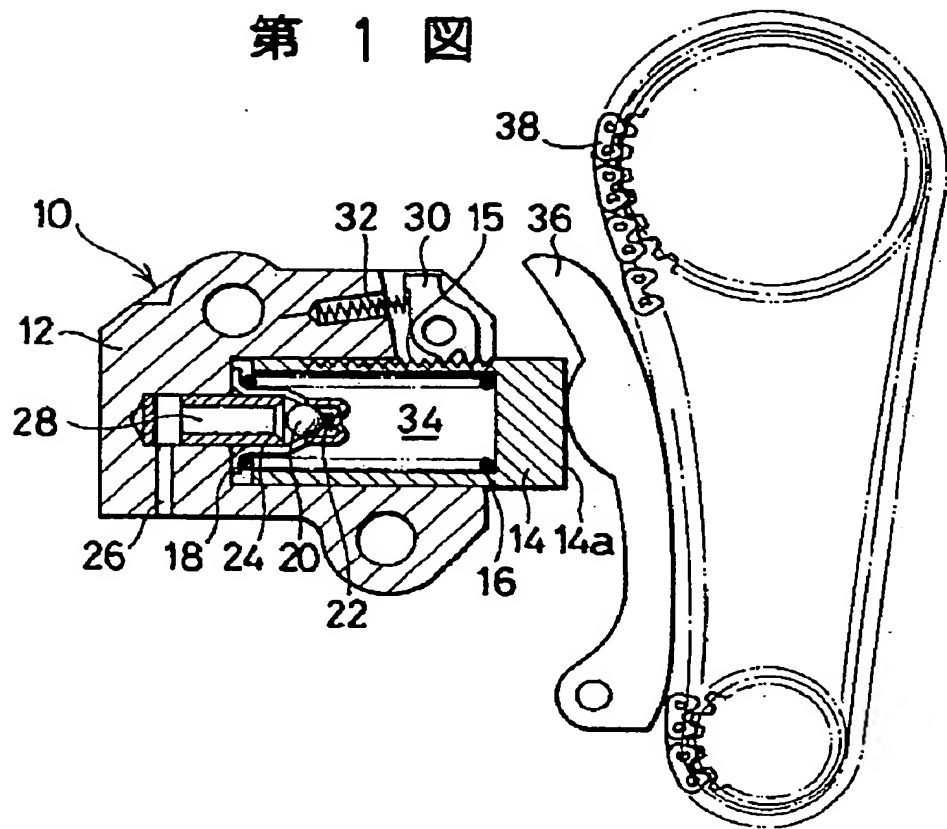
設定されており、具体的には、0.75, 1, 1.5及び2mmのものがある。この場合、3mmのピッチのラチェットと2mmのピッチのラチェットを用意しておけば、すべてのラックと組合せることができる。すなわち、3mmのピッチのラチェットは、0.75, 1及び1.5mmのピッチのラックと噛み合うことができ、2mmのピッチのラチェットは、1及び2mmのピッチのラックと噛み合うことができる。このように、ラックの歯のピッチと公倍数の関係にあるピッチのラチェットを用意しておくことにより、ラチェットの共用化を図ることができることになる。

考 案 の 効 果

本考案によれば、以上に説明したようにラチェットを共用化でき、ラチェットを成形する型等の製作費用を削減することができる。しかも、従来の等ピッチのものに比べ、本考案のラチェットは歯部が大きくなり、プランジャ後退時における破壊強度の面でも有利である。

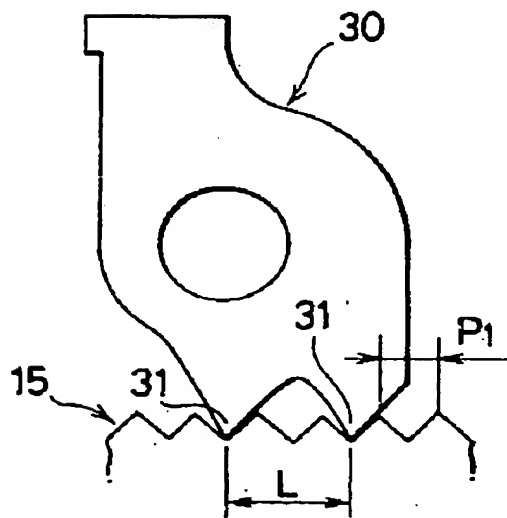
4. 図面の簡単な説明

第 1 図



Best Available Copy

第 2 図



第 3 図

